



骨折したときの対応方法

9月9日は「救急の日」です。全国で救急搬送をされた人の数は、令和3年と令和4年を比較すると、**13.2%増加**し、過去最多となりました。今回は救急搬送をされる理由の一つである骨折についてお伝えします。
〔総務省 報道資料 「令和4年中の救急出動件数等（速報値）」の公表より〕

■ 骨折の原因と症状

骨折の原因は、事故や怪我などの外傷、過度のスポーツ等で繰り返し力が加わることです。また、骨粗しょう症、加齢、運動不足、カルシウム不足等により骨の強度が低下することで骨折しやすくなります。*骨粗しょう症については、[2022年10月の保健師eye's](#)に掲載しています。

主な症状は、**強い痛み、痛くて動かせない**、冷や汗が出る、**腫れる**、**内出血**をする、**変形**する、などがあります。**骨折が疑われる時は、早期受診・早期治療**をすることが大切です。

■ 骨折が疑われたら

無理に動かさず、その場で応急処置を行うようにしましょう。ポイントは次の通りです。

①患部を含む上下の関節までが動かないように添え木で固定する。

- ・患部の**変形は元**に治そうとせず、そのまま固定する。
- ・着用している衣服で患部周囲が圧迫されないようにする。
- ・腕や足の固定は指先が見えるようにする。

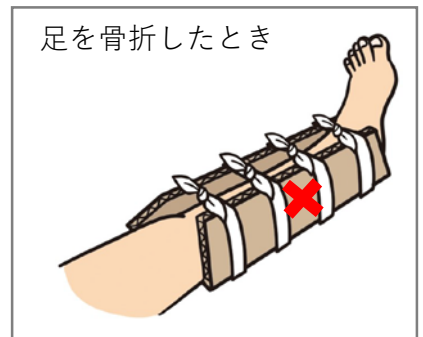
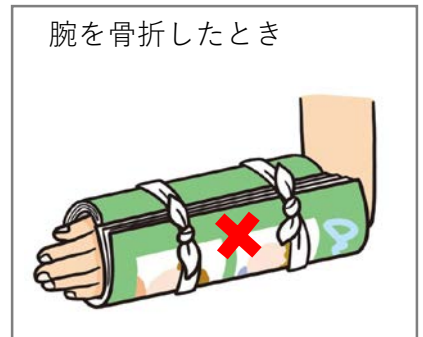
〔応急処置の例〕**✖**：骨折部位を示す

〈添え木として使えるもの〉

雑誌、毛布、定規、傘、段ボールなど
患部に対して長さ・幅の合うもので代用する。

〈添え木を固定するもの〉

包帯、タオルや衣服など布類、ガムテープ、紐など
添え木が動かない程度で強く縛りすぎない。



②可能な範囲で患部を心臓よりも高い位置に保ち、患部を冷やす。

※骨が皮膚から露出している骨折の場合は**患部に触れず**、感染予防のために清潔なガーゼで覆った後に固定をする。

※出血や腫れがあると血行障害を起こしやすくなるため、顔色、指先の色、しびれなどに気をつける。

■ 骨折の治療

骨折の部位や程度によって治療方法が異なります。主な治療方法は、手術療法やギプス等で固定する保存療法等です。患部を持続的に引っ張り骨を正しい位置に修復する、牽引療法をすることもあります。

【引用・参考】

1) 総務省 報道資料 「令和4年中の救急出動件数等（速報値）」の公表